

三井家同族会管理部会議録（その四）

本号に掲載した分は、管理部会議別録である。記載の期間は、本録と平行する明治三五年から同三七年にわたっているが、実際には記載された三三事項のうち、二九項目が明治三五年度分で、

残りの四項目は明治三六、七年度分である。このように別録の記載が明治三五年に集中している状況は、一つには管理部会の発足当初の活発な活動状況を反映しているともみえるが、どのような場合に別録に記載したかは必ずしも定かでないので、集中の理由は断定できない（あるいは、明治三六年以降書記の都合で記載が中断したとも考えられる）。

別録に記載された事項を具体的にみると、最も多いのは、管理部会議本録に記載された議事のうち、陳述・審議が詳細にわたったものの審議内容である。そのほか、本録には議案項目の記載もなく、別録にだけ記録された事項がある。また、三五年八月五日第三回管理部会までの議事録については、益田孝の花押があり、益田が記載内容を確認していたものと考えられる。同じく三五年七月八日第二五回と同月二八日第三〇回について、朝吹の押印があるが、その理由ははっきりしない。いずれにしろ、この別録は、本録と対になっており、すでに掲載されてきた管理部会議録

第一号冊、同第二号冊、同第三号冊と合わせて管理部会議録全四冊を構成するものである。

なお、本号の管理部会議別録の掲載をもって、四回にわたった管理部会議録の史料紹介を終わる。終わりにあたって、これらの克明な議事録を記録した管理部書記長の成瀬隆蔵について若干のべておこう。もちろん、議事録の作成は、書記の役目としておこなわれたのであるが、毛筆墨書きで記されたその内容の克明さ、的確さは、成瀬の個人的な才覚によるどころ大であったと考えられる。三井家同族や重役たちとは立場の全く異なる裏方で、貴重な史料を残す一端を担った書記成瀬の経歴を紹介することは、一つの趣向であろう。

成瀬隆蔵は、旧幕臣の子として安政元年（一八五四）一二月に生れた。沼津兵学校、慶応義塾に学び、明治八年（一八七五）商法講習所が設置されると入学し、第二回生として卒業後そのまま矢野二郎所長の下で教員となり、やがて東京高等商業学校の教授となっている。その後、商業教育調査のため欧米視察に派遣され、帰国後大阪商業学校校長に就任した。

成瀬が三井に就職したのは、彼が明治二八年（一八九五）九月、

三井の手によって設立された上海紡績株式会社の発起人総代となり、創立事務を担当してからである。同年一月には、同会社の総支配人（月給百円）となったが、やがて翌二九年一月には辞任している。この間、二八年一月より元方書記三等（月給四〇円）、三井臨時建築掛を兼任し、二九年九月二日、新発足の三井商店理事會書記となり、書記としての経歴がはじまる。

明治三三年（一九〇〇）七月、三井家憲の制定、三井家同族會事務局の設置、三井營業店重役會の発足等と同時に、成瀬は同族會事務局秘書掛長、三井營業店重役會書記長兼務に任せられている。この時の給与は、月給一八〇円、手当（重役會分）五〇円であった。明治三五年（一九〇二）四月、三井家同族會管理部會の発足とともに、彼はさらに管理部書記長をも兼任することになったのである。

明治四二年（一九〇九）、三井合名會社の設立、三井家同族會事務局の改組によって管理部が廢止されると、成瀬は三井家同族會教育部主事専任となり、ふたたび教育に専念し、清泉學寮により三井家子弟の教育にあたった。晩年は、大正九年（一九二〇）四月、三井合名會社参与、同一五年（一九二六）一月退職、以後重役待遇を受けている。昭和十七年（一九四二）二月一日歿、享年八九歳。

完結にあたって、末尾に管理部會議錄全四冊について提出者別の事項索引を付した。

（松元 宏）

凡例

一 本号には、「管理部會議別録」（自明治三五年度至明治三十七年度）を全文収録した。前号までの掲載は以下の通りである。

「管理部會議錄」第一号（明治三五年度）

「三井文庫論叢」第七号（一九七三年）所収

「管理部會議錄」第二号（明治三六年度）

「三井文庫論叢」第八号（一九七四年）所収

「管理部會議錄」第三号（明治三七年度）

「三井文庫論叢」第九号（一九七五年）所収

一 用字は原則として通用の字体を使用し、宛字および仮名づかい等は原文のままとした。

一 読みやすくするため、適宜に読点を加えた。

一 欄外に朱書された文字は「」でくくり、右肩に（欄外朱書）と注記した。

一 印判はその位置に○印をつけて（某印）と注記し、花押はその位置に（花押）（某）と注記した。

一 訂正箇所には左傍にミをつけ、右傍に訂正後の文字を「」にくくり（墨書）と注記した。しかしたんなる誤記とみられるものは省いた。

管理部會議別録目次

明治三五年

五月一六日	一三井銀行ノ現状及同行神戸支店及小野浜倉庫報告……………	三〇七
六月六日	一三井銀行毎半季公告ノ科目組替ヘノ件……………	三〇七
	一山陽鉄道、九州鉄道株ハ同族会事務局ニ於テ買取ル事……………	三〇六
	一三井銀行所有日本銀行株ヲ同族会事務局ヘ買上ニ關スルノ件……………	三〇六
六月一三日	一三井銀行ノ營業方針ニ關スル件……………	三〇六
	一芝浦製作所処分ノ件……………	三〇〇
	一呉服店各製系所処分ニ關スル件……………	三〇三
	一綿糸海外一手販売引受ノ件……………	三〇四
六月二〇日	一三井銀行ノ營業方針等ニ關スル件……………	三〇五
	一鐘淵紡績会社中津紡績会社合併ニ關スル件……………	三〇六
六月二六日	一麻生太吉氏ヘ貸増下相談ノ件……………	三〇六
七月八日	一湖南汽船株式会社株三井名義引受ニ關スル件……………	三〇七
七月二八日	一營業店特別賞与ニ關スル件……………	三〇九
	一三井呉服店ニ關スル件……………	三〇九
八月一日	一支店長更迭ニ關スル件……………	三〇九
八月五日	一呉服店所轄製系所ニ關スル件……………	三〇九
八月二六日	一東京モスリン紡織株式会社拡張ニ關スル件……………	三〇六
	一營業店視察ニ關スル件……………	三〇六
八月二六日	一呉服店所轄ノ製系場讓渡ニ關シ原富太郎氏ト引合ノ件……………	三〇六
	一三井呉服店所轄製系所ニ關シ原富太郎氏ヘ再応照会ノ件……………	三〇六
九月二日	一平岡浩太郎氏ニ關スル件……………	三〇三
九月九日	一市村炭礦処分ニ關スル件……………	三〇三
	一駿河町新築移転ニ際シ東京市ヘ寄附ノ件……………	三〇四
	一鐘淵紡績会社々債募集ニ対シ伯爵井上顧問ノ意見ニ關スル件……………	三〇三
	一三井呉服店所管四製系所讓渡ニ關シ原氏ト最後交渉ノ件……………	三〇三

九月一八日

一 三池附近海面坑区ニ関スル件……………三六四

一 芝浦製作所処置ニ関スル件……………三六五

九月廿六日

一 芝浦製作所処分ニ関シ下相談ノ件……………三六五

一〇月三十一日

一 劔山鉦山事業縮少ノ件……………三六六

明治三六年

一〇月一三日

一 万田山丸ニ関スル件……………三六六

明治三七年

三月二五日

一 三池海面坑区買入ニ関スル件……………三六七

一 使用人海外派遣ニ関スル件……………三六七

一 支店出張所々在地ニ於テ軍人援助ノ寄附方針ニ関スル

件……………三六七

以上

(表紙)

〔明治三十五年度
至同三十七年度〕

管理部會議別録

(原寸 縦 236mm, 横 160mm)

三十五年五月十六日

(花押) (益田孝)

一午後一時三十分重役会室ニ於テ第拾貳回管理部会ヲ開ク、当日

ハ協議要項ナク、只左ノ報告アリ

一三井銀行ノ現状

一三井銀行神戸支店及小野浜倉庫報告

益田専務理事曰ク、今日ハ別ニ議案ナク、曩キニ取調ヲ命シタル報告アルニ付御一覽アリタシ、一体此管理部ニ於テハ事業ノ進捗ヲ謀ルヲモ協定スヘキナレド、本部設置ノ第一主旨トモ申スベキハ營業店ノ整理ニ在レハ、鉾山会社ノ部ニ於テハ先日報告セン芝浦製作所ノ処分ノ如キ、其他硫黃山鉾山杯ニ於ケル収支、将来ノ見込如何等取調べ存廢ヲ定ムルヲ、尤

モ是等ハ近々団理事モ帰京致スベクニ付其上ノトシ、呉服店ニ於テハ製糸場等ニ就キ存置スベキモノハ改良ノ要點、將タ廢止スヘキモノハ売却ノ方法等詳細取調べ、又物産ニ於テハ金融ノ方法當ヲ得ルヤ否、買越売越等限度内ニ於テ取引サル、ヤ否等視察ノ要點ナルヘク、殊ニ銀行ノ每半季決算公告ヲ見ルハ如何ニモ薄弱ナルヲ其道ノ者ニハ輒リ相分リ、信用上如何カト掛念セラル、必竟營業用及ヒ抵当流込地所家屋ニテ殆ント資本金額以上ヲ占メ、其他公債株券等壹千四百万円以上ノ固定ハマダシモ、株券ノ中ニハ鐘紡、王子製紙等多數ナルハ世間ニテ知り得ルヲニシテ、王子ハ多額ノ株主而已(券カマ)ノミナラス手形貸越等併セテ百六十余万円アリテ、其利子ハ益金ノ如クナルモ、其実利息ノ實際仕払ヒ少ク、多クハ加算書換ヘヲ為シ来リシモノニテ元利完済甚タ無覺束、左スレハ更ニ不安固ノモノニ付、愈特別營業準備金同族会ニ納付アリシトキハ何トカ名義ヲ付シテ之ヨリ多少補助シ、以テ三井家事業ノ根本タルベキ銀行ノ信用ヲ保持スル必要可有之、且ツ井上伯其内帰京アラハ第一起ルヘキ問題ハ三池ノ築港ノナルベシ、就テ此築港ハ鉾山ノ事業トスルカ或ハ別ニ事務局ノ事業トスルカ、又資金ノ支出ハ鉾山会社ニ増資スルカ將タ如何ナル方法ヲ取ルカ、是等ノ利害等差當リ取調べニ着手致度云々陳述アリ

三十五年六月六日(金曜日) 第拾七回管理部会ニ於テ

益田専務理事陳述

(花押)(益田孝)

一三井銀行毎半季公告ノ科目組替ヘラシテハ如何、假令ハ營業用
地所建物及ヒ什器トシテ百五十四万四千四円トアルカ如キ甚多
キニ失シ、世人ヲシテ三井銀行ハ不利ノ地所建物等ヲ所有シテ
居ルトノ感ヲ与フルコトアルベシ、然ルニ是等ノ中ニハ倉庫用敷
地建物等モアリテ其利益ヲ得ルモノナレハ、夫等ハ倉庫ニ組替
ルコトニスベシ、又國債、地方債券、会社債券ト合併ニ認メアレ
氏、是等モ公債、株券等ト仕訳ケスル方宜シカラン云々陳述ア
リ、早川銀行専務理事等賛成アリ

一山陽鉄道、九州鉄道株ハ同族会事務局ニ於テ買取ルコト、若シ資
金ナケレハ銀行ヨリ一時借用シテハ如何云々陳述アリシニ、其
ハ本期丈ハ見合可然、若シ余リ細工過キテモ多人数使用ノ所故
却テ疑ヲ来スノ恐レアリ或ハ面白カラストノ議アリ

一三井銀行所有日本銀行株ヲ同族会事務局ヘ買上ニ関スルノ件

三井銀行ニ於テ所有スル日本銀行株壹千四百四十三株ハ(総
原価金五十万九千三百拾三円余)三井家体面上手放シ難ク、
殊ニ最モ確實ノ株券ナルモ銀行ニ於テハ日本銀行ヘノ融通ニ
利カサルモノナレハ、同族会事務局ニ於テ預金等ヲ流用シ買
上ケルコトトシ、右代金不足額ハ銀行ヨリ借入レ、其利子ハ日
本銀行株ノ配当割合ニ準シ、全部買入ル、其ハ銀行所有株券
高ノ減少ヲ来タシ貸金増加スル次第ナレハ、決算公告上ノ体
面モ宜シク云々陳述アリテ、買上ケノ方然ラントノ事ナリシ

一三井銀行ノ營業方針ニ関スル件

三井銀行ノ營業方針ニ就テ聊カ申述度、予テ井上伯モ云ハ
ル、如ク銀行ハ三井營業店ノ基礎トモ謂フヘキモノニテ、其
信用如何ハ三井營業店全般ニ関スルヲ以テ、先ツ十分ニ講究
シテ之カ整理ヲ計ラサルヘカラス、楮此銀行ノ現狀ト謂フ調
書ヲ御覽ニテ御承知モアラン通り、三井銀行ハ目下ノ処商業
銀行トハ申シ難イ、云ハ、「インヴェストメントバンク」、
即チ放資銀行トモ申スヘキデ、調書ニ示ス如ク三種預金全体
式千八百八拾七万余円ノ内小口当座預金千貳百八拾七万余円
ニテ、預金中ノ最多額ヲ占ム、此預金ハ殆ト全ク商人以外ノ
者ガ郵便局ヘ預ケルニハ手数數カ面倒ナリ、去リトテ小銀行ハ
危険デアルニ、三井銀行ト云フ富豪ノ誠ニ安全ナ好キ預リ手
ガアルカラ是レ屈強ト託スルノデアル、定期預金ハ金千百万
余円、小口当座預金ニ次テ多分ノ高ナリ、此ハ或会ノ金トカ或
ハ当分入用ノ見込ナキモノニテ決シテ商業者ノ金ニアラズ、
先商業者ノ金ト見做スヘキモノハ当座預金ナリ、此預金ハ纒
ニ四百九十九万余円ト云フ少額ナルヲ以テモ放資銀行デア
ルハ明カナリ、而シテ此預金ト資本金、積立金ハ如何ニ使用
サレテ居ルカト見レハ、有価証券二千五百參拾余万円、流込
地所及建物ニ四百五万余円、營業用地所建物及什器ニ二百五十
四万余円、其余ハ貸金等ナルモ、此貸金ノ内三井各商店ニ五
百万カラノ貸金アリ、其中物産ヘノ貸金ハ先余リ固定セサル
モノナレハ、其他ノ鉱山ナリ呉服店ノ分ハ多ク固定スルモノ

ナリ、又準三井商店トモ云フヘキ鐘紡、王子製紙ヘ二百萬以上ノ貸金アリ、王子製紙ノ如キハ殊ニ固定シ居ル、猶貝島其他ヘノ貸金百六十七萬余円モ固定ニ屬スルモノ故、普通ノ貸金即チ一般ノ融通金ハ九百五十五萬余円ニ過キス、如斯有様ナルヲ以テ利益モ随テ少シ、若シ利率ノ割合ヲ見レバ國債証券五分六厘二毛、地方債六分七厘四毛、社債券八分二厘二毛、諸株券六分五厘三毛、平均シタ所ニテ六分三厘一毛ヨリ当ラス、地所建物ハ平均五分二厘ニ過キス、然ルニ商業上ノ融通金ニ就テハ九分三厘余ニ當ル、ドウシテモ固定資金ヲ變シテ信用スヘキ商業手形ノ割引、短期ノ貸金等ニ活用スルノ利益アルハ明ナルノミナラス、一朝取付ニ出遇ヒタル時ニハ、商業銀行デアレハ速ニ貸金ヲ回収シテ之ニ応スルト云フ次第ナルニ、如此資金固定シテハ萬一ノ場合ニ如何トモ致方ナシ、単ニ銀行ノミヲ見ルルハ、世人ガ其現狀ニ就テ安固ナラサル如ク誤想スルヲアルモ無理ナラス、故ニ有価証券ハ抵當其外何ニカノ準備タル部分ヲ残シテ他ハ鋭意売却シ、傍ラ体面上又ハ關係上ニ於テ三井家ニ所有スヘキ株ト、容易ニ売却シ難キ鐘紡、王子製紙ノ如キ株式ト、流込不動産中永ク所襲トスヘキモノ等ハ、特別營業準備金ノ幾分ト預金中或部分等ノ融通シ得ラルヘキモノヲ以テ都合ノ限り同族会ニ買取り、固定資金ヲ活用資金ニ變シ、以テ出来得ル丈ケ得意先ノ便利ヲ謀リ、真ニ商業機關銀行タラシムルヲ勉メサレベカラズ、又幸ニ世ノ信用ヲ得テ預金増加スレハ結構ナリト雖モ、徒ニ

預金ノ増加ヲ計ルヨリハ經費ノ節減ヲ勉ムル方安全ニシテ終局ノ利益多カルベシ、三菱ノ如キハ費用甚少シト聞ク、三井銀行ハ他ト異ナル所ノ事情アルモ猶聊カ過分ナルカノ感アリ、聞クカ如クンハ行員杯モ或ハ三分ノ一位ヲ減シテ間ニ合フトノコトデアアル、其他支店長會議モ年々二回ナルヲ一回ニ減スル杯、何トカ經費ノ節約ヲ勉ムル等能ク細察注意スルヲ要スベシ

殊ニ現今銀行ノ支店ハ二十ヶ所アルカ、此内利益アル所アリ利益甚少キ所モアラン、事体支店ノ利害ニ就テハ姑ク措クモ、節減ノ上ヨリシテ余リ利益ナキ所ノ支店ハ寧ロ閉鎖スル方善カラシ

以上陳述シタ所ハ普通ノコトニテ先此方針ハ当然ナランモ、サテ然ラハ資金ハ皆融通金ノミニスル方善ナルヤ、其モ亦萬一ノ場合ニ如何アルベキカ、其内幾何ヲ有価証券トシ其種類ハ何種最モ可然カ、又準備金ハ何程置イテ如何ニ之ヲ存スルカ、又預金吸收ノ程度、全般ノ營業振リ等ニ就キテハ十分評議ヲ尽スヘキナリ云々

早川理事曰ク、只今益田専務理事ヨリ三井銀行今後ノ大方針ニ就キ懇々御陳述アリ、其大体ニ於テハ大賛成ナルガ只預金ハ出来得ル限り増加ヲ謀リ度、預金多ケレハ随テ危険モアルコトナレモ、其用意如何ニ依テハ差シタル虞レナシ、又經費ノ節減モ如何ニモ必要アルベケレドモ急劇ノコトハ好マシカラズ、自分就職シテ更ニ前任者ノ使用シタ人ヲハ交ヘス、秘書

係、調査係ノ如キ内部密接ノ仕事ヲスル人スラ其儘ニ使用シ居ル訳ニテ、ドウモ俄ニ人ヲ減スルナリ換ユルナリ、或ハ給料ヲ減スルナリト云フコトハ三井ノ如キ所ニテハ殊ニ善クナシト信ス、故ニ經費節減ニハ御同意ナレ氏之ヲ徐々ニ実行シタシ、又節儉ヲスルモ擴張スヘキコトハ擴張シテ差支ヘナカルヘシ、或ハ多少御考ト異ナルヤ計リ難キモ内地ニ二、三ノ支店ヲ増加シ、支那内地ニモ物産ニテハアレ丈ケノ關係アルコト故支店ヲ設置シタリ、少クモ其調査ニ著手シテハ如何、兎ニ角必用ナルコトニ向テハ多少擴張スルト同時ニ用心スヘキ所ハ十分ニ用心セサルヘカラス、欧米ノ銀行ニテハ大抵預金ノ四分ノ一位ハ準備金トスル故ニ、終ニハ其位迄ノ準備ハ置カント思ヘ氏、是迄準備ナント云フコトハ少シモ為サ、銀行ニテ之ヲ為スハ余程氣ノ利カサルモノナリト云フ様ナ考デ、支店長會議ノ時モ其意向ヲ窺フト多クハ其様ノ感触ナリ、併シ預金銀行トシテ相当ノ準備ヲセヌト云フハ決シテアルヘカラサルコト故、就職ノ當時ヨリ松方伯ノ懇切ナル忠告モアリ、旁目下凡ソ一割、即チ三百万円程ハ用意シ、其半額ハ日本銀行ヘ無利息預ケト為シ置キタル次第云々ト陳述アリ

益田専務理事ハ早川専務理事ノ言ニ統キテ、今御説ノ支店増設等ニ就キテハ私共ノ考ト同一ナリトモ申シ難シ、此等ハ篤ト御相談ヲ要スヘシ云々ト陳ヘラレタルトキ、時既ニ遅キヲ以テ閉会セリ

六月十三日(金曜日) 第拾九回管理部会ニ於テ

益田専務理事發議 (花押)(益田考)

一芝浦製作所処分ノ件

芝浦製作所処分ニ就テハ先會ニ於テモ彼は御評議アリシカ、今聞ク所ニテハ当局者ノ團理事ハ放手スコト惜ムト云フコトアルモ、併シ三井家ノ事業トシテハ現今ノ有様甚不体裁、去リトテ改造ハ容易ナラズ旁処分スル方宜シカルヘシ、尤モ売却スルト云フ意向ガ同所ノ者ノ耳ニ入ラバ、大ニ勇氣ヲ阻喪シテ如何トモ致方ナキコトニ至ルヘキニ付、最モ秘密ヲ要スヘシ、乃チ此ニ取調ヘタルモノニ依レハ同所ノ財産ハ地所菅万坪ト機械ガ其重ナルモノナリ、建物杯ハ古イ不完全ナルモノニテ価ハ甚少シ、兎ニ角今ノ財産ハ參拾八万余円ナリ、安価ニハ売却スルヲ好マス、高直ニハ買手ナシ、故ニ相当ノモノニ建直シ、寧ろ運轉資金ノ拾万円モ注入シテ參拾五万円カラ四十五万円位迄トシ、相当ノ積ヲ立テ株式会社トスル方宜シカルヘシ、此ニ加入アルヲ懇望スル者ハ電気ニ關係アル者即チ仕事ヲ与ヘテ呉レル株主ヲ得タシ、假令ハ電車鐵道会社ノ如キ、若シ会社ニアラサルモ其重役杯ガ入社スレハ可ナリ、電車鐵道ニテハ随分五、六万円ノ株主トナリ得ヘシ、又他ノ電鉄即市街鐵道ノ如キ電気鐵道ノ如キ、又ハ東京電燈会社、品川電燈会社等ノ重ナル重役ガ加入シテ株式会社ト為ル以上ハ事業上大ニ都合ヲ得ルノミナラス、物産会社力海外ノ專売電気機械ノ一手販売ヲ引受ケ居ルニモ拘ハラズ、今日ノ処ニテ

ハ往々盗作窃製ニ類スルアルガ、三井デナク他ノ会社ニテスル以上ハ其辺ニモ善ケレハ、又株式ニナリ居ラハ売ルニモ売リ易シ、斯クナレハ何程カ人モ加入スヘシ、今利益ノ平均ハ貳万六千參百余円、地所ハ六万四千七百余円、機械ハ貳十五万三千九百余円、建物ハ六万貳百余円、計參拾八万四千四百拾貳円、如此見積レハ損益ナキ訳ナルガ、地面ヲ一坪拾二円ト見テ拾參万五千七百拾參円、建物ヲ壹万円ト積リ、機械ハ五掛ニテ七万五千余円、新規ニ取寄セタ機械ノ原価ハ九万円ナレハ六万五千円トセハ都合貳拾九万貳千円程ナリ、此文ケナレハ確カナルモノナルモ左スレハ九万円ノ損トナル、是ハ愈会社ニスルト云フ場合ニ相当ノ価格ヲ積リテ、此方ニモ余リ損ナク株主ニモ成リ手ノアル程度ニ取定メザルヘカラス、此程モ極内密ニ他事ニテ話ノ序ニ電車鉄道ノ意向ヲ窺ハント欲シ、同社長トノ交話ニ、随分電気ノ仕事ハアルヘシト察スレ氏、去リトテ一ヶ所ヲ持タル、程ノ一モナカラン、就テハ芝浦製作所ヲ株式組織トシ、各位モ之ニ入り用弁シテハ如何ト其意向ヲ叩キタル処、追々話ノ進ムニ從ヒ終ニ自分ノ方ニテモ一ヶ所持タサルヘカラスト思タ位故、相当ノ評価ニテ左様ニナレハ最モ結構ナリト同意ヲ表シタリ、依テ此事ハ私カ偶然考ヘタリニテ相談ヲ経タリニアラサレハ何ントモ申シ難ケレトモ、間々用ヲ申付ケラル、所ナレハ兎ニ角行テ見ラレタシト申セシニ、左スレハ大ニ安心ニテ至極名案ト申シ居タリ、其他モ大分同意者アルベシト思フ故考察ヲ右ノ如ク定メラレ

テハ如何ト陳述アリシニ、朝吹理事ハ之ヲ早急ニ売却スル方一番ナレドモ此事カ知レタル日ニハ実ニ始末ニ了ヘス、又容易ニ買手ナク余程六ヶ敷ト思フカラ謂ハ、第二策ノ益田氏カ今述ヘラレタ如ク株式会社トスル方可ナリト、又益田理事ハ先日モ或ハ鉄道ノ引キ込メル相当ノ場所ニ移ストノ議モアリシガ是トテ中々容易ノ一ニアラス、其儘營業シ居リ、利益アラハ段々ト建直ス一ニ力ヲ尽ス方宜シカルヘシト陳述アリ電車鉄道ニテハ買ハザルヤト問ニ対シ団理事曰ク、移スト云フテモ容易ノ一ニアラス、大ナ機械アレハ甚難シ、今尙電気製作ハ左程ナク、機罐、機械ノ方多シ、詰リ電気三分ニ機械七分ト云フ如キ有様ナレハ、電車鉄道ニテ之ヲ買取リテモ自己ノ用ニノミ充ツル一ハ六ヶシ

益田理事曰ク、先頃モ大田黒ニ芝浦ノ事ハ一番能ク知ル足下、主トシテ株ヲ募リ四十万円位ノ会社ヲ起セハ人モ信シ都合能ク成立スル一ト思フガ如何ト話セシニ、同人ハ目下尙電気ヨリハ機械製作多シ、中々電気斗リニテハ成業ノ見込ナシ、然ルニ機械ノ方ニテハ石川島ヤ本所ヤ芝ノ松井、大川ノ画シタル製鉄所等多ク潰レタ位故、此等ニ手ヲ著ケテ亡父ノ遺産ヲ投スルト云フ一ハ何分出来難シトテ断リタリデアアルガ、株式会社トシテ營業ノ出来ヌ一ナシ、之カ一番善カルヘシト、早川理事ハ寧ソ十分ニ擴張シテハ如何、益田、朝吹理事等其ハ一旦試ミシ一ニテ、潮田ヲ米國ヘ派遣シ其他學士等ヲ傭聘スル等彼是計畫セシモ、非常ナ費用倒レニテ遂ニ今日

ノ場合ニ推移セリ、次テ朝吹理事ハ如何ニ考フルモ第二策善シト思フ、今ノ処ニテハ物産ガ外国ノ代理店ヲ引受ケ居リ、其代理店ノ人若シ日本へ来レハ自然芝浦工場ヲ見シ、之ヲ見レハ直ニ他ノ専売品ヲ盜作スル如ク感スルコトモアラン、同シ三井ノ部内デ見レバ赧然セサルヲ得ナイ様ナ次第ナリ、然ルニ他ノ株式会社ナル以上ハ其辺ニ於テモ差支ヘナケレハ第二策愈可ナリ、斯ク処分スレハ如何ト云フニ、先阪ニ全体ヲ參拾五万円トスレハ他カラノ分拾五万円位アルベシ、左スレハ三井ノ方式拾万円ニテ半額以上ノ株アル故ニ、或ハ電車ナリ其他重ナル処ヨリ重役入り、此方大田黒ヲ先三井ノ代表者トシテ専務取締役ニナリシテ置ケハ安心ナリ、而シテ繁昌スレハ株ヲ売ルコトモ出来テ甚善シト思フ、之ニ次テ早川理事ハ、ソウナルモ善カルヘキガ、王子製紙ノ例ニ依レハ、此方斗リノ持チナレハ面倒ナキニ、此方ガ百式十萬ノ株主ニテ他ニ八拾萬アル為ニ甚面倒ナリト云フ様ナコトモアルカラ、其辺モ一考セサルヘカラス、決シテ反対スル訳ニハアラサレハ、其心配ナキヤト思フヨリ講究ノ為ニ一言ス、又海軍ノ方ハ大分以前ト違ヒ用ヲ頼ムト云フ話モアルカラ、此等ヲ引受ケレハ可然モノト言レタレハ、益田理事ハ、他ノ株主アル為メ面倒アルトノ点ハ至極考ヘモノナレハ、王子製紙トハ幾分力趣ヲ異ニシ、又海軍ハ會計法杯アリテ中々ソウハ行カヌ、朝吹理事ハ之ニ統キ王子ノハ大分ノ違ヒアリ、全体多数ノ株ヲ持チ居ル処ヨリ終ニ此方ガ取ツテ掛リタモノ、加フルニ彼ノ如ク損失

ノ場合ニナリタルカラ事情不得止訳ナリ、畢竟利益アレハ面倒ナシ、利益ナキヨリ面倒アリ、其辺ノ心配ハ芝浦ニ就テハ先ツナシト信ズ、早川理事ハ、併シ目下利益アルト云フコトハ今敢テ処分セズトモト思フ氣味アリ、団理事曰ク、海軍モ多少アレハ昨今ハ陸軍多シ、故若山ニ造船ノコトヲ引受ケサセタガ、船渠モナクテ造船ヲ始メタ故ニ損ヲ覚悟デ横須賀ニテ船ヲ作ルト云フ始末ニテ、其シナコトヨリシテ此工場ガ三井ノ手ニ入りテ以来若山時代ニ三期丈ケ損アリ、其損ハ中々多額ナリ、他ハ皆利益トナリ居リ三十三年以來利益ノ割合ハ七分六厘、六分五厘、八分四厘、一割一分五厘、一割七分七厘ト発達シ、前期迄ニテ總テ損失ヲ填補セリ、併シ同族会ヘ對シテ式拾八万余円ノ利息モ支払ハサリシハ、畢竟多少ノ利益生シテモ使用人ノ賞与金等ノ如キ費用ハ皆本部ニ於テ引受ケテ、前ノ損失ヲ填補シツ、アリシ為メナリ、然シ初メヨリノ損益ヲ差引キスレハ拾萬八千カラノ利益トナリ居ル、其処今度ノ築港費ニモ年五萬円位ハ此芝浦ノ利益ヲ見込ミアレハ、其等ノ点ヨリシテ甚惜ムヘキ思ヒヨナスノデアアル、併シ其ハ若シ他ニテ埋メ合セアレハ敢テ言フコトナシ、朝吹理事ハ、何レ多少ノ利益アリテ可惜ト云フ位ニ処分セサレハ人が相手ニセザルコトナレハ、当底処分ヲ付ケサルヘカラス、此辺ガ処分ノ秋ナルベシ、而シテ四拾萬円ノ会社トスレハ電車カ五萬円、其他共拾五萬円位出来ルベシ、ト述ヘラレタリ

益田理事ハ、若尾ナリ根津ナリノ人佐竹杯モ善カルベシト云

ヒ、尚兎角私共理事等ニ御任セニテ彼是ノ説ヲ御聞キ下サレ
 マスガ、御同族ノ御意向ハ如何ナルヤ、予テノ御主意モアル
 「故御腹藏ナク御意見御聞カセ下サレタシト言ヒ、養之助殿
 ヲ見テ御考ハ如何デスト問ハレタレハ、第二策善カルヘシト
 答ヘラレ、猶彼是ノ議アリシガ、愈株式組織トスルニハ評価
 如何其辺ハ成立ニ大關係アレ氏此等ハ追テノ「トシ、兎ニ角
 株式組織ニスルノ方針可然ト決ス

一 呉服店各製糸所処分ニ関スル件

朝吹理事曰ク、私ハ相当ノ買手アラハ製糸所ハ処分セラル、
 様アリタシト存ス、是迄富岡、大嶮等ハ大抵益トナリ、名古屋、
 三重ハ損ナリ、中々相場モ荒クテ半年一年ニ損益ヲ見ル
 可カラス、少ナクモ三年、五年ヲ平均スル「必要ナリ、拙モ
 一年ニテハ大ナル高下アリテ判然セサル程ノ荒イモノナリ、
 一体富岡ハ買取りタノデアルガ大嶮ハ流込ナリ、此ニケ所ニ
 止メ置ケテ可ナリシニ、物産ニテ紐育ヘ支店ヲ出スニ八千、
 十ナクテハ一商売トナリ難ク、其千梱ガ入用ト思フテ三重ト名
 古屋ヘ新ニ設ケタルナリ

益田理事曰ク、最初ハ右ノ考ナリシガ、實際ハ皆紐育ヘ出サ
 ズ、相場ノ都合ニ依リテハ横浜ニテ売ル「アリ、又製糸所ノ
 側ヨリ見レハ少シニテモ利益アル様ニシタイカラ物産ヨリ他
 ノ方、仮令ハ生糸合名会社杯ノ直段能ケレハ夫レヘモ売ル「
 ニナリ、随分最初ハ八釜敷ニフタ「アレトモ、實際一ツニスル
 「ハ出来難キ「デアルナリ、先日来岩原ト彼是申合セマシタ

ガ、紐育ノ方ニテモ段々慣レテ危険ナ売方ヲナサ、ルモ済ム
 コトニナリ、且又必ス我手二千梱カラナクテハ紐育ノ店ガ成
 立シ難キ「ナク、最「三、四年モ経ハ三、四千梱ハ容易ニ捌
 ケル「モ出来、三井ニテ此製糸所ヲ所持セネハナラヌ必要モ
 ナクナリタリ、之ヲ売却スル為メ物産会社ニハ別段影響ナシ
 ト思ヒマス、為念申上置ク

朝吹理事曰ク、売ルト申シテモ譲受人ハ蓋シ絶無、万一二ハ
 只一人アリト思ヒマス、益田理事曰ク、抑モ三重、名古屋ニ
 製糸所ヲ設置シタ時分ノ考ハ、製糸ノ業ハ金持ノ仕事ニテ、繭
 ノ季節ニ多額ヲ買入レテ段々引上ケテ相場ノ出合又時「持チ
 堪ヘル如キ、到底貧乏人ニハ皆ク行カヌト思フタノデ、然ル
 ニ實際ハ田舎ニテ相当ニ製糸スル者ガ、イザ蚕時ト云ヘハ兄
 弟モ来タレ從兄弟モ至レト云フ「ニテ、固ヨリ一家親類寄ツ
 テ致ス「故、給金等ノ大ナル費用ナシ、加フルニ金ハ糸ヲ繰リ
 テハ問屋ヘ送リテ為替ヲ取り又跡品ヲ遺ルト云フ「訳ニテ、存
 外金繰リモ付キ同時ニ費用モ掛ラサレ氏、此方ニテハ相当ノ
 人ヲ置キ、給料ヨリ賞与ヲ出シテ行クノ「ミナラス、金モ遊金ナ
 ラ兎モ角ナレドモ銀行等アリテ働ク金故、イザ呉服店ニテ借
 用トナラハ三錢一厘杯ト云フ高歩ナリ、若シ三井ガ何ニモセ
 ス金ノ使用ニ困ル場合ナレハ善キモ、皆金ヲ利用スル以上ハ
 矢張り此為メニ高歩ノ金ヲ使フ故ニ、最初ノ考トハ總テガ反
 対トナレリ云々、伊藤小左衛門ノ如キ者ノナスニ最モ適當ナ
 リ、朝吹理事曰ク、今日本ノ製糸力總テ「十七万梱ナリ、其

内三井ガ三千梱カラ出シ、富岡ヲ始メトシテ皆上手ニナリ、是ヨリ上直ニ売レルハ纒ニ小口ノ室山ト鐵ノ一、二所アルノミニテ、荷口ノ揃ト云ヒ上直ニ売レルノハ殆ト一等ナリ、殊ニ最初ハ皆價レサル故ニ十二、三ヌ取リト云フテ買タ爾カ廿ヌ、廿一ヌ位ニ過キサルヲ以テ腹ヲ立タ「モアリタレ氏、今日ハ大抵目的違ハス費用モ大分減額シテ上手ニハナリタレ氏、矢張り費用ハ比較的多分ニ掛リマス、又曰ク、製糸所全体ノ価格五拾万円、内三重・名古屋參拾万円、富岡拾五万円、大崎五万円ナリ云々、益田理事ハ得右衛門殿ニ対シ、アナタハ近頃製糸所ノ方ニ御關係ナレハ大分ニ御承知ナルベシ、御意見如何ト問ハレシニ、其答ニ、何分ニモ非常ニ荒イ商売ニテ何時モ同利益ヲ得ルト云フコトハ出来難シ、費用ハ他ニ比シテ猶式拾円位ノ相違アレハ先売却ノ方可ナルベシ云々、朝吹理事之二次キ、売却スルトシテモ譲受人ヲ見出ス「中々容易ナラス、何年ノ後ナルヤ測ラレス、只大体ノ御方針ノミ協定シ置クラ願フナリ、若シ売レ、バ横浜連ナルベシ、幸ヒ今年好景氣ニ趣キ伊藤小左衛門杯ノ連中ガ引受ケ與レ、バ至極善シ、尤モ富岡ヤ大崎ノ処分ハ付クヘキモ、三重ト名古屋カ六ヶ敷、名古屋ニハ逆モ買手ナシ、好況ニ向ヘハ此土地ヨリ三井ガ手ヲ引クカラ之ヲ潰スハ可惜トテ会社ニデモナレハ成立ノ見込アルガ、先伊藤等ノ外ハ六ヶ敷カルベシ、益田理事ハ、是レモ真ニ大体ノ方針ナリ、既ニ芝浦ヲ売却スルト云フ話ヨリ大田黒ハ團理事迄万一ヲ慮レテ辞任ヲ申出タト「、此等ノ「

ハ呉々モ極内密ニ附シ置カサルベカラス、若シ所員ニデモ知レ、バ種々ノ事ヲ惹起スヘシ、朝吹理事曰ク、誠ニ然リ、既ニ新町ト絹糸紡績合同ニ付、新町ノ者ガ此際三井ヘ置テ貰ヒタシ杯申出テタレ氏、御伺ヒスル迄モナクト存シ直ニ其ハ不相成、合併スルニ付仮令一人デモ二人デモ人ヲ取レハ先方ニテハ善キ者ノミ取りタル如キ感ヲ起スヨリ一切其儘ニ置ク、何レ德義上出サルレハ世話モスル積リナルカ約束ハ出来ヌト申シタリ云々、彼是協議ノ末大体ニ於テ好キ買取者アレハ之ヲ売却スルノ方針ニ決ス

益田専務理事發議

(花押)(益田孝)

一綿糸海外一手販売引受ノ件

益田理事曰ク、今一ツ申上度ハ余ノ義ニアラス、大阪ニ於テ紡績聯合会員中ノ会社ガ同盟シテ連合販売即チ其製品ヲ悉ク一手ニ托シテ販売セントスル企テ起レリ、斯クナレハ競争ナキヨリ内地ニ於テ高ク売リ、其残りヲ支那ニテ安く売ル「ニテ、物産会社ガ此販売方ニ關係スルヤ否ヤト問題ナリ、之ガ為メ藤野亀之助ヲ代表者トシテ出シタカラ同人ヲ呼戻シテ、此程モ理事、參事、法律ノ「モアルヨリ庶務課長ト紡績ノ「ニ明キ朝吹理事ニモ臨席ヲ乞ヒ種々協議シタリ、詰リ此販売ヲ托シテ五百万円迄ハ三井ヨリ出タサセ、一梱ニ付幾何カノ報酬ヲ出サント云フ「ナリ、第一ニ此「シンデケート」即チ連合販売組合ヲ作りテ、其委員ガ一梱九拾円又ハ百円ト極メテ其直デ引受ケタル会社ガ一手ニ売捌クト云フ次第第二ニ、此

責任ハ連体責任ナラサルヘカラスルニ、此点ニ於テハ未タ確乎タラス、此点ト今一ツ講究スヘキハ、内地ニテ高売スルトセハ、此迄競争ノアル為メ其価安ク、三枚ノ着物ヲ服シタ処ガ高価トナリタル為メニ二枚ヨリ著用スルヲガ出来ヌト云フ一時結果ヲ生ズ、若シ此紡績業カ衰頽スレハ矢張り終ニ高クナルヲ故、決シテ此「シンヂケート」ノ為メニ永ク損害ハ受ケサル次第ナルモ、ヤレ三井ハ高売リナリ買占メナリト世間ノ無暗攻撃アルハ甚厭フベシ、代表者ハ總テ引受ケヲ望メ凡段々相談ノ結果、物産会社ハ海外貿易ニ就テハ決シテ人ニ譲ラス、ソコデ六十余会社全体ノ産出七拾万梱トシ、仮リニ二十万梱海外へ出ルトスレハ貳百万円、三十万梱トスレハ參百万円ノ海外販売丈ヲ契約シテ荷為替ヲ引受クル方、批難攻撃ノ掛念モナク得策ナルベシト決シタリ、此主意ニテ二十万若クハ三十万海外へ出シテ其報酬ヲ得ルトセハ、正金銀行ニテ為替ノ金モ得ラレ金ノ心配更ニナシ、万一荷為替ノ損アルハ内地ノ分ヨリ取り得ルヲナレハ、安全ニシテ利益アル商売ナリ、併シ斯ル連合ニ加ハルヲハ重大ナルヲ以テ本会ノ御意向同ヒ置ク次第ナリ云々

朝吹理事曰ク、産出七十万梱ノ内地ノ売高ハ高価ニナル為メ減却スルト見ルモ尚ホ四十万位ハアルベシ、左スレハ海外ノ方三十万梱、此内少クモ半額ハ物産ニ於テ取扱フベシ、而シテ海外ノ分ハ外ニテ扱フモ、其報酬ハ平均一梱ニ付凡ソ壹円位ノモノトシテ皆物産会社ニ得ル、故ニ大丈夫ニシテ且相当

ノ利益アルヘキニ付、引受至極宜シカラント信ス

益田理事曰ク、何故ニ物産会社ヘ託スルカト云フニ、物産会社ハ広キ耳ヲ持ツテ居ル、支那ノ何処ニテ何程売レル杯ハ物産ガ一番能ク知り居ル、随テ之ヲ引受ケント欲スルナリ云々、此時連合販売ノ委員ト物産会社トノ契約案ニ付、益田・朝吹兩理事彼是交話アリ、終ニ朝吹理事其草案ヲ朗読アリテ海外一手販売引受ケ可然ト決ス

六月二十日(金曜日) 第二十卷回管理部会ニ於テ

益田専務理事陳述

(花押)(益田孝)

一三井銀行ノ營業方針等ニ関スル件

予テ井上顧問ヨリ、余リ改マラスシテ悠クリ銀行等營業店ニ関シ自宅ニ於テ熟議シタシトノナリシヲ以テ、昨十九日同族會議長、管理部會長、早川、波多野、朝吹、団、有賀理事等ト共ニ同伯邸ニ會シ、意見モ述ヘ、種々細カナル質問モ出デ、伯ノ氣付ヲモ彼是述ヘラレタルヨリ、其儀午後四時ヨリ十二時ニ涉リ、早寝ノ伯、目ヲ擦リナカラ懇談ノ結果、当分内部ノ堅固ヲ計リ勢力ヲ養フ旨意ニテ、別紙議案ノ如キ三井銀行ノ營業方針トナレリ、詳細ノ事ハ理事等差含ミ居レハ宜シカルベク、物産会社ニ於テモ予々退テ守ル覚悟ニテ在リナカラ、自然業務拡リ、多少費用増加セシト雖モ、本期ノ如キハ大分ノ利益アリシカ、爾來ハ漸次手ヲ締メ、只管保守ノ方

針ヲ取り可申云々陳述アリ

六月二十日(金曜日) 第貳拾壹回管理部会ニ於テ

朝吹理事発議

(花押)(益田孝)

一 鐘淵紡績会社ニ中津紡績会社合併ニ関スル件

来七月愈鐘紡ニ九紡合併セハ、九州ニ於ケル紡績会社ハ僅カニ中津、博多ノ二(会社)ノミ、当方目下内部ノ整理ヲ主トスル場合聊拡張ハ欲セサレド、若シ之ヲ合併スレハ他ニ競争者無く、自衛上頗ル好都合ト可申、然ルニ中津ハ鐘紡会社株券面ニテ三拾万円、外ニ負債六万円ヲ引受ケ、始末金壹万五千元出金致シ與レナハ合併致度ト申出、当方ニテハ株券面トハ申ナカラ申出多額ニ過クルヲ以テ鐘紡株五千五百株(貳拾七万五千円)ヲ出シ、六万円ノ負債ヲ引受ケ、始末金壹万五千元ヲ出セハ都合參拾五万円トナル、是レナレハ承諾可致ト答ヘル見込ナリ、同会社ハ機械モ新ラシク且執業方モ宜ロシ、是迄三期間ハ無配当ナリシカ本期ハ一割ノ配当ヲ為シ得ベキ随分有望ノ工場、若シ新規同工場ヲ創立ストセハ無論五拾万円以上ノ費用ヲ要スヘシ、博多ノ方ハ興泰ヨリ式拾万円ノ負債アリテ正金ヲ要スヘクモ、鐘紡ニ於テハ現今之ヲ出シ難ク、随テ合併ハ六ツカシカルベシ、而シテ此博多モプラットノ新ラシキ好キ機械ナルモ、中津ト違ヒ不注意ニ逆使スルトノ由、宛ニ角中津合併後ニ至リ又々合併スルコトハ定期売買中止等仲々面倒モアレハ、今一応能ク取調ヘ交渉ヲモ為ス積リ、当方ハ大株主ノコト故、右御意向如何哉予メ伺置度云々陳述アリテ、

合併スル方可然ト決ス

三十五年六月廿六日(木曜日) 第二拾二回管理部会ニ於テ

早川銀行専務理事発議

(花押)(益田孝)

一 麻生太吉氏へ貸増下相談ノ件

早川専務理事曰ク、先般麻生太吉氏ニ対シ全坑区ヲ担保ニ供セシメ金拾五万円ヲ貸付ケタル際、藤棚炭坑ニ関シテハ帝國商業銀行ヨリ二番抵当ニテ貸付ケタルモノ処分未定ニ屬シ、其他數口ノ債務複雑シ居タル処、今般藤棚炭坑ヲ麻生氏ニ於テ一手ニ引受ケ、帝國商業銀行ニ番抵当ニ係ル金拾四万円ハ麻生氏ノ負担トシ、二ヶ年半無利息ノ儘据置キ、其後ハ五分ノ利息ヲ以テ年賦償還ノ約定ヲ結ヒ、更ニ金拾五万円ヲ此際同炭坑ヲ担保トシテ帝國商業銀行ヨリ借入レ、毎月五千円宛月賦償却ノ約束取結候趣ノ処、藤棚炭坑ハ本洞炭坑ト相俟テ共ニ之ヲ同一坑主ノ下ニ於テ經營スルニ非サレハ、鉱業上不經濟ニシテ不便尠カラサルニ付、同氏ハ今回本洞炭坑ヲモ買入レントス、而シテ其買入金參拾五万円ノ内拾七万円ハ現在ノ儘三井銀行ヨリノ借入ヲ繼承シ、残り拾八万円ノ内五万円ハ帝國商業銀行ヨリノ借入金ヲ以テ之ヲ弁スルトシテ、其不足金拾參万円ハ更ニ三井銀行ヨリ借入レタキ旨員島太郎ヲ介シテ懇談致シ来レリ、然ルニ此種ノ貸付ハ目下固定貸整理ノ際断然拒絶スヘキモノナレド、本洞炭坑ヲ堀三太郎氏ニ賃貸

シテ採掘セシムルヨリハ、麻生氏ニ於テ担当シ經營スル方事業上安全ナルヘク、元金ノ償還モ亦確實ナルヘクニ付破格ノ取扱トシ、拾参万円左ノ条件ヲ以テ同氏所有ノ炭坑一切ヲ担保トシテ貸増シタシト陳述アリ、益田、岡、朝吹理事等意見ヲ述ヘラレ彼是協議ノ末、参万円ヲ減シテ拾万円丈ケトシ、其取計ヒハ門司支店ニ於テ為サシムルヲニ決ス

一目下本洞炭坑ニ関スル債務、月々ノ償却金額ハ来三十六年一月ヨリ式千円ヲ増加スル

二藤棚炭坑ノ出炭ハ総テ三井物産会社へ一手販売ヲ委託スル

三麻生氏ヨリ支払ヲ為ス金円ノ内ヲ以テ、三井銀行ニ対スル堀三太郎氏關係ノ借入金及ヒ許斐鷹助氏關係ノ借入金ヲ三井銀行へ返金セシムル為メ、差引シテ現金ヲ交付スル

四当行へ担保トシテ提供セル九州鉄道株ハ漸次売却シ、其收益金ハ当行へ預ケ込マシムルコト

五本洞炭坑ノ名義ハ従来ノ通り三井鉱山会社タルヘキコト益田、早川両理事發議

一湖南汽船株式会社株三井名義引受ニ関スル件

益田専務理事湖南汽船会社ニ関スル来状ヲ示サレテ曰ク、同会社総株數参万株ノ中、募集ノ結果式万参千株程ノ応募者アリシモ、凡ソ七千株ノ不足ヲ生シ、此上応募ノ見込ナシ、当方目下只管整理ノ方針ナルヲ以テ新株ハ引受ケサルヲト致シ

可然ト存セリ

早川理事曰ク、ソレハ一応御尤ナレ氏、自分等名義式百株ツ、計四百ノ發起株ニ三井名義六百株ヲ差加ヘ、都合千株引受ノニ致シタシ、物産会社ノ關係モアルヲ故無下ニ断ルモ如何アランカ、若シ右スラ応セヌトナラハ我々ハ發起人ヲ罷メルガ至当ナラン

益田専務理事ハ、今ヤ三井ノ方針ニ於テ新株等ヲ引受ケサルヲニ相成リタルカ為メ、引受ケサルトテ一向差支ヘナシ、且物産会社ニ於テハ此会社成立セル左程利益アルト云フ次第ニハ無之、必竟郵船会社等ニ於テ開始スレハ論ナカリシ、兎ニ角明日此会社ノニ就テ相談アルニ依リ、其断リ方ハ私カ引受ケ申ヘシ

早川理事ハ、今更断リテハ世間ヲ欺ク様ニテ済マス思ヒヲナス朝吹理事曰ク、何ニモ世間ニ対シテ済マスヲハナカラン、今日ノ場合三井ハ新株杯ニ手ヲ出サヌト云フヲ知ラセルヲモ善カルヘシ、引受ケルト受ケサルト議論纏ラサルトキハ顧問ノ裁決ヲ請ハネハナラヌガ、此裁決ヲ請フノモ余リ大層、寧ロ同族会へ提出シテ決スル方宜シカラシ

猶彼是議論アリシカ、益田理事ハ、ツマリ応募株満タサレハ商法ノ規定上結局發起人ニ於テ引受ケサルヘカラサル次第ナリ、園田氏ハ予テ華族杯ハ更ニ当ニナラヌカラ彼是解キ廻ルヨリ發起人ニテ引受ケル方可然ト云ハレシガ、畢竟園田氏自身少株主故其ノ説アル所以下云ヒシアリ云々陳述アリテ、

未決ニ了レリ

七月八日(火曜日) 第貳拾五回管理部会ニ於テ

益田専務理事陳述

一營業店特別賞与ニ関スル件

○(朝吹英二印)

各店特別賞与案ニ付昨日彼是取調ヘタル処各店業務ノ相違アリ、随テ支給方一様ニ出来難ク且却テ一様ニナラサル処趣キアラン、銀行杯ハ腕ヲ揮テ利益ヲ収得セントスルモ仕事力極ツテ居ルヲ故夫レモ出来ス、物産杯ハ之ニ反シテ腕次第稼クヲカ出来得ルヲ故、或ル期ハ多ク給与スルヲアルモ、或ル期ハ少ク、時ニ依リ全ク給セサルヲモアリ、其他鉾山、呉服店ニ於テモ夫々業務仕振り違ヒ居ル故給与上相違モ致方無之ニ付、本期ハ提出案ニ多少訂正セシモノニテ給与スルヲトシ、追テ恩給内規ト相俟テ特ト取調ヘ何トカ方法ヲ講シ可申云々陳述アリ

益田専務理事発議

(花押)(益田孝)

一三井呉服店ニ関スル件

○(朝吹英二印)

高橋呉服店理事ヨリ呉服店ニ関シ

第一、断然呉服店ヲ売却スルヲ

第二、店舗ヲ改築シテ拡張ヲ謀ルヲ

此二案ニ就キ何レカ至急御指定ヲ乞ヒ度、現状維持ハ断シテ不可ト存ス云々ノ書面提出有之、当管理部ニ於テモ既ニ漸次

呉服店ノ取調ベニ着手シ意見ヲ定ムル見込ナリシ、就テハ至急調査何レニカ決定スヘキモ、差当リ呉服店ハ三井家祖先ノ創業ニ係リ其縁因モ深キコト故、利益ノ多少ハ別トシテ人ニ譲ルト云フハ忍ハレ難キ様御恩召アランカノ如ク、曾テ御同族ニ同ヒタルヲモナク期セズシテ皆何トナク感シ居リシカ、此際ハ御同族方ニ於テ篤ト御勘考下サレ、仮令祖先ノ創メタル業ニテモ、世ノ変遷ニ従ヒ三井トシテ営業スルノ価値ナキモノトシ、他ニ譲ルトカ或ハ是迄継続シ着々改良シ来リタルヲ以テ猶拡張シテ営業スルトカ、寄リ々御打合せ下サレ御方針決定相成度云々ト陳シ、朝吹理事ハ、右高橋理事ヨリ書面ヲ差出シタルハ、此頃東京市区改正委員ニ於テ京橋ヨリ万世橋迄道路改正ニ着手ノ議アリ、実行ノ晝ニハ呉服店側七間通り取り掃ハル、ニ付、其前是非トモ今後ノ御見込御決定ノ必要アルヨリ急ニ書面ヲ差出シタル次第ナリト述べ、同族会議長ヨリ拡張スルトハ如何スルカトノ問ニ、益田理事答ヘテ、世人追々時間ヲ重ンジ来リ、是迄通りノ売方ニテハ買取り方面倒ナルヨリ勸工場流行スル所以、其ノ顧客ニ便利ナルハ一目シテ好ム品ヲ求ムルノ便アリ、今ノ呉服店モ其意ヲ察シ同業者ニ先ンジテ陳列所ヲ設ケ着々新案ヲ出セシモ、其店ハ継キ足シ間ニ合セ来リタルニ依リ、光線ハ充分ナラス高低曲屈不便少ナカラス、随テ監督上不都合多キノミナラス顧客ニモ不便ナレハ、現状ノ儘拡張ヲ謀ラントスルモ最早如何トモスル能ハサル境遇ニ立至リ、猶駿河町聯合建築家屋出来セ

シ眺今ノ儘ニテハ見素ボラシクト共ニ前記ノ不都合モ有之、且市区ノ改正ノ結果縮メラル、^一故其前改築ノ必要アリ、又大阪支店モ本店同様ノ次第二付改築セサルベカラス、尤モ擴張ト申シテモ家屋ノ建築ノミニアラサレハ、先ツ三井ニ於テ小売呉服ノ模範ヲ垂ル、トセバ家屋改良ノ必要アリ、次テ陳列品ノ配置方、物品配達ノ改良等種々可有之、委細ハ追テ取調ノ上可申述モ調査ノ都合有之候ヘハ、先ツ御同族ノ御意向御決定アリ度云々陳述アリ

七月二十八日(月曜日) 午前十時半重役会室ニ於テ第參拾回管理部会ヲ開ク
(花押)(益田孝)

益田專務理事陳述概要
一支店長更迭ニ関スル件

銀行提出ノ此支店長更迭案ニ就テ唯申ス次第ニハ無之、近頃良得意ヲ得ル^一ニ付彼是御沙汰アル場合、其目的ヲ達スルニハ、土地ノ状況等ヲ熟知スルト共ニ得意先ト懇意ニ為ル^一最モ必要ナルベシ、他ヨリ聞ク所ニヨレハ、是迄三井銀行ハ更迭繁ク、漸ク知り合ヒタリト思フ頃ハ忽チ更代スル為メ双互兎角打チ解ケ取引スルニ至ラストノ説アリ、尤モ余リ永ク同地ニ勤続スル片ハ、自ラ情弊ヲ生スルニ至ル^一アルベキモ、之ヲ防ク手段ナキニシモアラザルヘシ、兎ニ角良得意ヲ得ルニハ更迭ノ頻繁ナルハ如何カト存セリ、早川理事曰ク、御説

御尤、自今其方針ニ因ルヘキモ、此度ハ神戸支店長鈴木梅四郎、王子製紙会社取締役ニ撰任ノ為メ其後任ヲ撰ムノ結果、勢ヒ異動セサルヘカラサルト、暫ク変更ノ挙ナク、支店長中随分一所数年ニ亘リシ者等アリ、夫是都合ヲ計リ発案シタル次第ニ付、先本案通り可決アリタキ旨ヲ述ヘ、次テ益田、朝吹両理事ヨリ更迭者中三、四人ヲ指摘シテ適否等彼是陳述スル所アリタリ

三十五年八月一日(金曜日) 第參拾壹回管理部会ニ於テ

益田專務理事陳述
一 呉服店所轄製糸所ニ関スル件
(花押)(益田孝)

益田專務理事陳述ノ概要ハ、呉服店所轄ノ製糸所ノ事ニ関シ先頃原富太郎氏ニ交渉シタル処、大崎、富岡ハ拾万円位ナレハ譲受ケタクモ、三重、名古屋ニ就テハ篤ト熟考スルカラ猶予アリタシト申セリ、畢竟其熟考トハ人ヲモ派シ己レモ実地ヲ見ル積リナリシヲ以テ、彼是調ヘタ上ノ申出ニハ、大崎、富岡ノ方ナレハ拾万ノ上ニ一、二万円ハ増スヘキモ、三重、名古屋ハ何分算盤ガ取レス、且今年ハ既ニ繭ノ買入モアリシ^一ナレハ、明年ナリニ先ツ借用シテ試ミタシト^一、然ル片ハ一年試ミテ成算ナシトテ返サレテモ仕方ナク、或ハ為メニ非常ノ損害アルヘキニ付、呉服店理事トモ彼は話セシ^一ニテ敢テ同フ迄モナキ次第ナカラ一寸其成行ヲ御報告致ス云々、早川

理事ハ、然ラハ断然謝絶スベシト云ヒ、朝吹理事ハ、承レハ
原自身數人ヲ連レ富岡製糸所等へ取調ヘニ行キ、多少所員ノ
氣先ヲ害セシトノ報アリ、先方ノ処置ハ敢テ無理ナラサルモ
当方ハ迷惑ヲ感セリ、其ハ兎モ角今年ハ繭モ買入タレハ、此処
讓渡ノ談ヲ断テ各製糸所ヲ独立セシメタシ、畢竟小ナ処へ本
部我々ノ給料杯ヲモ課スルヨリ利益ナク、随テ買手ヲ得ル
モ難シ、依テ独立ニテ利益アレハ漸々消却シ、全ク消却シ終
レハ無価テモ可ナル訳ナリ、而シテ大嶮、富岡ヲ拾五万円、
三重、名古屋ヲ拾万円トスレハ、先ツ三重ノ方ハ三、四万円
ニテ、名古屋ノ分ハ六、七万円ト評価スヘキナラン、原価ヲ
云ヘハ四拾万円以上ヲ要シタルニ付、拾万円デハ機械代ニモ
当ラス、併シ此ニテモ若シ買手アレハ売却ニナルカ、ドーモ
三重、名古屋ハ売却六ヶ敷、若シ売ルトナレハ繭ノ仕入前ヲ
然リトス、仕入後ノ今時ニ至リテ所員ノ氣先ヲ害シ怠ラレテ
ハ非常ノ損失トナルヘキ故、責メテハ三重丈モ伊藤小左衛
門杯ニ来年テモ産繭前売レハト思フ等ノ説アリタレトモ評議
熟セザリシ

三十五年八月五日（火曜日） 第叁拾貳回管理部会ニ於テ

益田専務理事陳述

（花押）（益田孝）

一東京モスリン紡織株式会社拡張ニ関スル件

益田理事陳述ノ概要ハ、東京モスリン紡織株式会社事業拡張

ノ件ニ付端善次郎ヨリ申出ノ次第ハ、段々モスリン事業モ進
歩シテ製産モ増シ大分ノ利益ヲ生スルコトニ至リシモ、目下輸
入ハ中々多ク事業ヲ拡張シテ製品多額ニ至ルモ需用ヲ超ユル
コトハナキニ付、假令一割位ノ利息ヲ払フモ叁拾万円ノ社債ヲ
起シ、ミュール拾貳台、器械式百五十六台ヲ増設スルハ五
万七千六百反ヲ製シ得ベシ、斯クスルモ輸入ノ多キコト猶拾万
七千余反ノ余地アルコト故更ニ差支ナシ、若シ当方ニテ躊躇致
シ居ラハ大阪モスリンニテ拡張スルノ恐れアリ云々、依テ先
頃毛糸紡績ノ器械ヲ買入レタル人カモスリン事業ヲ始メサル
カト念ヲ押シタル処、仲間ノ規約アリテ売却キニ困難ナルト
資金ノ乏キヨリ此事業ヲ當ムコト出来難シ、若シ当方ニ於テ社
債募集宜シカラント云フコトナラハ其募集モ容易ナラン云々ト
申セシニ由リ、縦シ社債ヲ募ル方可然トスルモ目下鐘紡ニテ
社債募集ノ考案中ナレハ、其模様分リタル上社債ヲ起ス方宜
シカラン、幸ヒ本日管理部会ニ付同ヒ置カント申置キタリ
朝吹理事曰ク、叁拾万円ノ社債ハ募レルナランガ、モスリン
株モ少シク高直ニナリ盛況ヲ呈スヘキ場合故、今一層能ク働
イテ立派ノ会社ト為シ、然ル后株ヲ募ルコトニセハ尚宜シカラ
ン、友人ナラ左様忠告シタシ、且一割ノ利歩仕仕フニモ及ハ
サルベシト云ヒ、猶早川理事ト共ニ此件ハ三井カ大株主故其
意向ヲ聞カントノ意ナルヤトノ問ヒニ、益田理事答ヘテ、其
意ニモ有間敷、ツマリ後口立ニ為シ置キタキト、自分ノ意ヲ
強クセン為メ相談ニ来リシ次第ナラン云々ト述ラレタリ、募

集ノ時期ト利息ノ割合ハ別トシテ社債募集ノ一ニ就テハ凡テ異議ナカリシ

一 營業店視察ニ關スル件

益田理事曰ク、視察ノ一モ段々後レテ如何ニモ規則ノ実行ヲセヌ様ニナリ、分担モ極メラレタ儘ニナリ居レリ、其内ニハ避暑ニ御出掛ケ可相成ニ付其前着手セラレ、残余ハ御帰京後ニ視察アル迄モ兎ニ角実行ノ端緒ヲ開カレタシ、顧問モ此視察実行ニ就テハ予々御話モアリ、余リ延引スルハ顧問ニ對シテモ如何カト存ス云々陳述アリテ、銀行、物産、呉服店ヨリ早々着手ノ一ニ決シ、議事録ニ記載ノ通り視察担任變更アリタリ

三十五年八月十二日（火曜日） 第三拾三回管理部會ニ於テ

高橋呉服店理事報告

一 呉服店所轄ノ製糸場譲渡ニ關シ原富太郎氏ト引合ノ件

呉服店ノ四製糸場ヲ纏メテ原富太郎氏ヘ譲渡ス件ニ付段々駢合ヒシ処、同氏ノ申スニハ、富岡、大崎ニヶ所ハ見込アルニ付最初拾万円ト申セシガ、奮發シテ拾貳万円迄ハ出ス一ニ致スヘキモ、三重、名古屋ハ何分見込相立タス、左リナカラ一所デナクテナラヌトナラバ本年ト来年ニヶ年間借用シテ試業致シタシ、尤モ両三人ノ外ハ所員等皆其儘ニ差置キ可申、只来年ノ繭ノ買入時ニハ其買入代ノ融通ヲ願フ一ニ致シタシ、

弥々試ミタル上見込相立バ相当ノ代価ニテ御譲受可致モ、若シ見込立タサレハ御返シスル一ハ予メ御承諾置キ願ヒタシ、富岡ハ五百人取りデアルカラ之ヲ新規ニスルモ拾万円ナラ出来ル様思ハルレトモ、余程奮發シテ右ノ如ク申出タ一故御承知願ヒ度云々、就テハ之ニテ御譲リ可相成哉、若シ譲ラズト云フ一ナラバ所員皆御売却ト察シテ不安ニ思ヒ居ル場合ニ付、最早他ニ譲ル一ハ無之旨御申出シテ願ヒタシト陳述アリ、右ニ付評議ノ概要ハ、富岡、大崎ヲ拾五万円トシテ他ニヶ所ハ貸スヘシト云ヒ、或ハ寧ろ彼是スルヨリ今年待テ処置スヘシト云ヒ、或ハ富岡、大崎ヲ譲渡シ、三重、名古屋ハ所有スルカ左ナクハ廃止シテハ如何ト云ヒ、或ハ縁ヲ繋キテ置ク一カ善イカラ皆貸ストシテ年賦償却セシムル一ニシテハ如何ト云ヒ、或ハ富岡ヲ物産会社横浜支店ニ持タセ三ヶ所ヲ廃止シテハ如何、或ハ拾七万円ニテ総ベテ売却、或ハ総ベテヲ廿五万円トシテ拾貳万円即金、拾三万円ヲ十ヶ年賦ニシテハ如何等、益田、早川、団、朝吹理事及ヒ得右衛門殿等彼是説アリシカ、終ニ益田理事ハ富岡、大崎ヲ拾五万円即金ニスルカ、又ハ富岡、大崎ヲ拾貳万円即金トシ、三重、名古屋ヲ拾万円十ヶ年賦ニスルカ此ニ案ニテ今一応高橋理事ヨリ交渉シ、若シ第一案ノ如ク交渉纏ラバ三重、名古屋ハ本年丈ヶ従前ノ通り執業シテ后処置スル一ニ致シテハ如何ト陳述アリテ是ニ決ス

三十五年八月廿六日（火曜日） 第參拾五回管理部会ニ於テ

高橋呉服店理事報告

一三井呉服店所轄製糸所ニ関シ原富太郎氏へ再応照会ノ件

高橋理事曰ク、先般ノ御協議ニ基キ富岡、大嶮ニケ所ヲ拾五万円ニ、名古屋、三重ヲ拾万円ニテ譲渡スルニ可致旨原富太郎氏ニ再応交渉セシ処、同氏ノ申スニハ即金拾万円残金拾式万円十ヶ年賦ナラハ譲受ケ申サン、若シ十ヶ年賦ニテ余り長過キルトノ思召ナラハ八分ノ利引キ割合ニテ即金ニ支払フニ可致ト云ヘリ、依テ自分ハ責メテ六分ト云ヒシニ、夫デハ中ヲ取りテ七分ノ利引払ヒ迄ト交渉進ミタリ、七分トスレハ殆ント參万五千円斗リノ利ニ当ル故差引キ八万五千余円、即チ即金合計拾八万五千余円トナル訳ナリ、種々交渉ノ結果大略此ノ如クニテ先ツ此上如何トモ致シ難ク云々ト報告アリ、右ニ付彼是協議アリシカ、遂ニ即金拾万円残金拾五万円ヲ拾ヶ年賦ノ割合ニテ七分ノ利引勘定ニテ即金払トスルニ掛合ヒ、若シ応セサレハツマリ即金貳拾万円迄ナラ、同族会ハ如何アルヘキカ難計モ、管理部会ニテハ調談ノ一ニ成リタリトテ、高橋理事自身ノ腹案トシテ拾參万五千円迄譲ル覚悟ヲ以テ今一応交渉可然ト決ス

早川銀行専務理事陳述

一鐘淵紡績会社々債募集ニ対シ伯爵井上顧問ノ意見ニ関スル件

早川理事曰ク、鐘紡社債ニ関シ伯爵ノ意見ハ、成程鐘紡ニ於テ百八万余円ノ不足アルカラ百万円ノ社債ヲ起ストノ旨意ハ了

知セシモ利息九分ハ高キニ過クルカ如シ、鐘紡ノ裏面ニハ三

井アリト世間ニテ思ヒ居レリ、然ルニ九分利ニテ社債ヲ起サネハナラヌニナルト自然世間ノ疑惑ヲ惹起シ信用ニ関スルヲ以テ止ムルコトニシテハ如何、若シ是非金カ入用トナラハ五十万円ニテ足ラントノ意見中々堅シト報告アリ、右ニ付彼是協議アリシカ、遂ニ信托ノ成否手続等能ク取調べ、且曩ニ交渉セシ会社等応否如何ヲモ儲メタル上、成案通りノ見込立タハ再応伯ニ陳述スヘシ、今日ノ如キ利安ノ時ナレハ出来ルコト思ハル、カ、万一ノ場合ニハ他ヨリ借り居ルコトカ却テ世間ノ信用ニ善イト思ハルレハ、眞理実益アリト信スル所ハ忌憚ナク伯ニモ論シテ実行ヲ努ムルコト宜シカラント決ス

益田専務理事陳述

一平岡浩太郎氏ニ関スル件

益田理事曰ク、坂田ノ辞スルコトハ平岡氏ニ於テ好マサルコト思ヒシ処、坂田ハ不都合ノ男ニテ山ハ乱掘シ且不経済ノ処置アリ、随テ借金セシ等損害不尠、同人ハ辞職ノ何ソノ所ニアラス、面目ナクテ出ラレヌ筈ナリ云々ト案外ノ来状アリ、依テ団理事トモ相談ノ上、坂田意ニ叶ハズバ解雇スルノ外ナク、其代リニ適當ノ者雇入レラレベシ云々ト至テ冷淡ノ返事ヲ差出シ置キタリ、此後金融ニ困リ強軟種々ノ歎願申出ルモ難計等彼是同氏ニ就テノ予想及相談アリタリ

三十五年九月二日（火曜日） 管理部会ニ於テ

高橋呉服店理事報告

一三井呉服店所管四製系所讓渡ニ関シ原氏ト最後交渉ノ件

高橋理事曰ク、昨日同族会ノ御決議ニ基キ原氏ト最後交渉ノ結果ハ

一 爾ハ暫ク呉服店持トシ、毎月入用丈ケ即チ大抵月十二、三万円位ツ、速金ニテ渡ス事

一 爾ニハ火災保険ヲ附シ其保険料ハ原氏ニ於テ負担ノ事

一 所有爾代ニ付テハ三十五年七月一日ヨリ利息ヲ原氏ニ於テ支払フ事

一 爾及貯蔵品高ハ帳簿面ニ依ルコトシ、東京ニ於テ受渡ヲ予定スルモ可ナレ氏富岡、大崎へ出張ノ上立合見定スルコト

一 明後四日速金拾万円ト年賦金壹万參千五百円即納ノコト

一 四製系所讓渡シニ付テノ登記料ハ原氏ニ於テ負担スルコト但シ讓受ケ代金ニテハ登記料多額ヲ要スルニ付、表面価格ヲ減却スルコトニ致度トノコト

右ノ如ク大体交渉相纏リタリ、爾代ニ付テモ此際裕金有之ニ付一時ニ支払ヒ差支ナケレ氏、若シ在荷横浜ニ滞停ノ時機アラハ差支ヲ生スルニ付、目下多少余裕アリトテ直ニ仕払フモ聊カ掛念アリト申シ居レリ、就テ右代金ハ都合ニテ一時ニ手形ニスルモ敢テ異存有之間敷如何可致哉ト述ヘシニ、早川理事ハ、現今ハ手許裕カナレ氏融通ヲ要スル場合ヲ慮リ、爾給有高ノ価格ニ対シ一時ニ手形ニ致シ置クコト相叶フコトナレハ最

都合宜シト云ヒ、朝吹理事ハ、総代価ヲ一時ニ手形ニセストモ

月々残高減却シ且入用ノ節ハ何時モ要求シ得ルコト故、一時ニ手形ニ致度ナシト述ヘ、早川理事モ夫ニテ差支ヘナシトテ他

亦異議ナカリシ、又売渡代金ハ同族会ニ納ムベキカハ呉服店ニ収入スヘキカノ点ニ移リ、彼是協議アリシカ遂ニ差當リ

呉服店ニテ受取り置キ、是等ノ処置結了後熟議スルコトニ決ス

編者注、本日の管理部会は会長不在のため正式に開会せず、高橋理事の報告のみが行なわれた

三十五年九月九日（火曜日） 第參拾六回管理部会ニ於テ

益田専務理事發議

一市村炭礦処分ニ関スル件

市村炭礦ニハ物産会社ヨリ都合拾參万円貸金アリ、其担保トシテ同炭礦ヲ鉱山会社名義ニ書替有之候処、同炭礦大切ノ部分ニ断層出ル等彼是困難相生シ、礦夫ヘノ賃金スラ仕兼兼ね市村義モ如何トモ難致事情ニ陥レリ、然ルニ隣坑区ナル杵島炭礦ヨリ採掘スルキハ大ニ利便アルヲ以テ、先頃来杵島炭礦ノ所有主ナル田島信夫氏へ市村及市村ノ左隣ナル十三塚炭坑ヲ併セテ売却方ヲ交渉シ、遂ニ拾万円ニテ買取り、内四万円ハ即金、六万円ハ四ヶ年賦払ト迄相進ミシモ、元來市村ノ所有ニ付同人ニハ壹万円涙金トシテ遺ルコトニ談セシニ、壹万円ニテハ身ノ振り付カサルハ勿論氣荒キ礦夫共ニ殺害サル、ノ恐レアルニ付、參万円程ナクテハ致方ナシト泣キ付ケリ、畢

竟一錢ヲモ給セズシテ差支ナキ次第ナカラ徒ラニ怨ヲ買フモ好マシカラス、殊ニ事実生死ニ関スル仕義故殺サレヌ迄ニ武万円遣ハスコトシ承諾セシメタリ、如斯処分スル片ハ差引凡ソ五万円、利息共六万円程ノ損トナレトモ、其代リ爾来右三坑ヨリ採炭ノ一手販売ヲ引受クル約束モ出来、却テ安心ノコト故仕末スル方後日ノ為メナラン、尤モ此義ニ付テハ長崎伊沢ヨリ此程出水ニテ市村坑杯ノ水下位ニ在ル杵島坑ニ落入リ、同坑ハ非常ノ水害ヲ蒙リ廃坑同様ノ姿ナレハ、田島氏ハ是非之ヲ買ハサルヲ得サレハ、今一層好都合ノ談判可然ト申越セシコトモアリ、旁篤ト取調ヘ確定ノ上ハ書面ヲ以テ提出致スヘキモ、予メ御意向伺ヒ置キ度云々陳述アリテ可然ト内定アリ

一 成瀬書記長ヨリ駿河町新築移転委員会ニ於テ、移転日ヲ来ル十一月二日(日曜日)ト概定セシ等議事ノ概要ヲ報告セリ、統テ益田専務理事ヨリ

駿河町新築移転ニ際シ東京市へ寄附ノ件、左ノ如ク發議アリ
駿河町新築殆ント落成シ近々移転ノ運ヒニ可相成ニ就テハ、東京市、而モ祖先ヨリノ開店地ナル駿河町ニ百万円以上ヲ費シタル一大建物ヲ新設スルニ至リシハ、市ノ眷顧ヲ蒙リシ結果トモ申シ得ヘク、且兎角富者ハ彼是毀譽褒貶ノ衝ニ当ルモノナレハ可成市民ノ感情ヲ善クスル為メ、此際三井家ヨリ大ナル寄附ヲ成サレテハ如何、銀行社長ニ此程御面會セシ節ニモ、当市ト京都市ニ対シテハ好機ヲ取リテ何カ相当ノ事ヲ為

スヘシトノ御意見御洩シアリ、就テ考フルニ今後社会ヲ支配スル者ハ何レニモ書生ノコト故、専ラ其ノ利益ニ供スルノ目的ヲ以テ、目下経営中ニ係ル日比谷公園内ニ費額凡ソ拾万円ヲ以テ一ノ図書館ヲ新設スルコトシ、之ニ五万円モ添ヘテ寄附セハ、上野ニ官設、番町ニ大橋書館アルモ芝方角ニハ皆無ニ付、後世有為ノ市民ヲ裨益スルコト渺ナカラサルヘシ、何レ秘密ニ大橋及大阪ノ住友書館ノ模様ト公園内設立ノ許否、又同族會提案迄ニハ横河ニ略図調製致サスル等十分取調ヘ、移転ノ義ト共ニ發表スル様致度云々陳述アリテ、大要可然ト内定ス

三十五年九月十八日(木曜日) 第參拾七回管理部會ニ於テ

益田専務理事發議

一 三池附近海面坑区ニ関スル件

益田理事曰ク、此三池附近海面坑区ノコトニ就キ此程モ兒玉少介氏ト小沢武雄氏トノ面談アリシ処、農商務大臣ヨリ此件ニ関シ面談シタシトコト故今朝訪問シ、先ツ是迄先願者カ私情ヲ陳シテ平田男ニ迫ルニモ拘ハラス其許可ナク、広ク日本礦業上ヨリ達観アリテ親切ニ仲裁的ノ勞ヲ取ラレシハ實ニ感謝ニ堪ヘヌ次第ト申セシニ、大臣ハ其ノ説ノ如ク、實ニ三井ナリ誰デアレ日本ニ於テアノ大切ノ礦山ヲ所有スル者ノ為メ、殊ニ築港スル場合ニ妨ケナイ様ニシタキ故心配セシ次第ナリ

シニ、遂ニ金高多少ノ仲裁迄ヲ持込マレシハ迷惑千万、併シ是迄心配セシコナレハ能ク〳〵双方ノ事情ヲ聞テ出来ルコナラ纏メルコニシタイト思フ、先方ニテハ十六万円丈出セハ先願權ヲ讓ル趣云々、依テ三井デハ如此コヲ議スルニハ三ツノ関門アリ、此関門ヲ通ルコハ容易ナラス、一体大臣カ斯克迄御心配下サル、ニ就テハ、云ハ、御願ヲ立テル為メ六万ヤ七万ハ出サ、ルヲ得マイ、曩ニ大蔵省ヨリ三池礦山ヲ払下アリシ片右海面モ願テ權利ヲ得テ置ケハ宜シカリシカ、海面ノコトテ他人カ手ヲ出ス間敷、由シ權利ヲ願フテモ持テ余ス計リト思ヒ打捨置ケリ、乍去右ノ次第ニテ兎玉ニモ六、七万ニテ纏ルナラ出スモ己ムヲ得サルヘシト申セシニ、兎玉カ遂ニ拾万円位ハ出ス哉ニ申セシナラン、兎ニ角彼是取調ヘシモ、此礦区ハ無クツテ差支ナキモノ故、右ノ関門ヲ通過スルコ余程六ケシク、且ハ三井デハ築港費多額ヲ要スルヲ以テ無駄ノ金ハ出シ難ク、当分儉約主義ニテ成功ヲ期サネバナラズ、加フルニ曩ニ三池弘ヒ下ケヲナセシ當時即金百万円ヲ出シ、年賦金參百五十拾万円モ漸ク納テセントスルモ、彼是多額ノ注入アリテ猶凡ソ參百五十拾万円カラ不足ヲ生シ居リ、世間デ見ル程利益ハナシ、是ハ御含ミ迄申置キマスト述ヘシニ、是ニテ委細テ承セリト能ク理解アリシ様子、併シ愈先方ニテ拾万円デ折合フト云フコニナラハ之ニ折合フ外有之間敷、其ハ御含ミアリタシ云々陳述アリテ、其場合ニハ己ムヲ得サルベシトノ議ナリシ

同上

一芝浦製作所処置ニ関スル件

益田理事曰ク、芝浦製作所処分ニ付テハ種々研究シ、望ミヲ属シタル東京電氣ト電車等ノ合併モ六ツカシキ有様デ、一方ハ一株四十円、一方ハ四十五円、其二株(九十円)ヲ以テ電車一株ト引換ヘント云ヒ、前島密氏杯ガイロ〳〵心配シタトノコナレ氏纏ラヌ由、夫レニハ佐竹、根津、雨宮連中アリテ中々纏メ憎ク、右弥々運ハヌトナラハ芝浦ヲ讓ル見込モ些ト齟齬スル次第ナリ、目下芝浦ハ固定資金凡ソ四十万円、運転資金參拾万円アルカ、寧ソ四十万デ電車ニ売り之ヲ株デ賣フカ、左ナクバ四十万円ノ新会社ヲ起シテハ如何カ、篤ト考究ノ上処置致度云々陳述アリ

三十五年九月廿六日(金曜日)

第參拾八回管理部会ニ於テ

益田専務理事發議

一芝浦製作所処分ニ関シ下相談ノ件

芝浦製作所ノ処分ニ付テハ屢々御評議ヲ煩ハシ居リシカ、電氣事業ニ関係ノ人々即チ東京電車鉄道、東京電氣鉄会社等ノ重役若尾逸平、中野武宮、佐竹作太郎、根津嘉一郎、前島密等ノ諸氏ハ何レモ芝浦ニ電氣注文ノ関係アリ、故ニ此等ノ人々カ株主トナリ又三井モ株主ノ一人トナリテ芝浦ヲ一ノ会社トシテハ如何カト存シ、東京電車ノ牟田口元学氏ニ謀リシ処

至極賛成セルヲ以テ、牟田口氏ヨリ右等ノ人々ニ相談ヲ試ミシニ、皆其意アル趣ナカラ、若尾氏杯ハ三井ハ製糸所等ヲ安ク譲リシ故芝浦モ安ク取レルナラン杯云フテ居ルトノコナレ氏、製糸所ト芝浦トハ同一ノ論ニ無之、其ハ兎モアレ今一応之力ヲ為メ集会スル筈ナリト申フ故、其場合ニハ芝浦固定資本凡ソ四拾万円ヲ株式ニテ三井持トシ、凡ソ六拾万円ヲ是等ノ人々初メ他人カ持チ、百万円ノ会社トシ、差当リ新株主ハ一株拾式円五拾錢ツ、払込ムコトシ、或ハ今少シ株数ヲ減シテモ宜敷カルベク、左スレハ一株ノ払込ミハ多額ヲ要スル次第ナリ、兎ニ角此ノ集会ノ節芝浦ノ明細表ヲ示シテ可然カ、又此固定資本ヲ幾分カ減価シテ可ナルカ此辺伺ヒ置キ度、ツマリ芝浦固定資本ハ

地所拾四、五万円ノ直打アルモノカ六万余円ニ付テアリ

建物カ六万余円

器械カ式拾五万余円

備品其他カ僅カ計リ

併セテ參拾八万余円

此固定資産表、損益計算、注文引受高及ヒ製作高表等ハ示シテ差支ヘナカルベシ等陳述アリテ、是等ハ示ス方至極然ルベシト決シ、猶市街鉄道ノ藤山運中即チ雨宮、野中、吉田等ノ諸氏ヘ話シ、又郵船会社ヨリモ電氣ノ注文アリ此方ヘモ話セハ加入致スヘク、右等ノ部下及当部内ニテモ多少希望者アルベシ、実ハ電車、電氣ヲ合併セハ物産ヘ注文引受ケ上都合宜

シク、旁先之ヲ謀リ而シテ芝浦ノ議ニ及ホサント彼是尽力セシモ容易ニ纏リ難クニ付、不取敢前上ノ交渉ヲ試ミタリ云々ト述ヘラレタリ

十月三十一日（金曜日） 第四拾參回管理部会ニ於テ

團鉾山会社專務理事陳述

一 鉾山鉾山事業縮少ノ件

團專務理事曰ク、鉾山鉾山ハ近来貧薄ニ相成リ從來ノ如ク産出スルコト能ハス、隨テ是迄通りノ計画ニテ執業スルキハ得失相償ハサルニ依リ、大ニ縮少主義ヲ取り改革スル見込ニ付、予メ御含ミ置有之度云々陳述アリ

三十六年十月十三日

益田專務理事陳述

一 万田山丸ニ関スル件

益田專務理事陳述シテ曰ク、万田山丸ハ香港ニテ修理シ、同所ニ於テ試験官ノ試験ヲ経テ回漕スル見込ノ処、日露ノ交渉破裂スルヤ否ヤハ未タ判定シ難キモ、開戦ノ際万々一海戦不利等ノ場合ニハ日本商船ハ捕拿セラル、ノ患アリ、依テ船名ヲ替ヘズシテ前持主ゼンキンス氏ノ所有名義ニ為シ置キ回漕スルキハ、此場合安全ナルベキニ付、同氏ニ多少ノ報酬ヲ給

シテ其取計ヒヲ為サンカト倫敦支店へ問合せノ積リナリ、何レ決行前ニハ管理部会ニ於テ協議ヲ乞ヒ可申モ為念御報告致置ク、愈開戦トナラハ郵船会社々船ハ無論政府ノ御用船ニ安価ニテ雇上ケラレ、当会社々船ニモ及フ場合ニ名義換ノ上御用船ニ向ケルモ然ルヘカラン云々陳述アリシニ、渡辺理事ハゼンキンス名義ニ為シ置クモ同人従来ノ性行上ヨリ危険ハ之レナカルヘク察スルモ、宣戦後ハ商船ト雖氏中立国ヨリ買取ルコトニ為シ能ハサルベシト述ヘ、此辺ハ篤ト取調ノ上トスルコトナレリ

明治三十六年十月十三日重役会ニ於テ

編者注、右の記事は明治三十六年一〇月一三日第四五回三井営業店重役会における報告である、なお本件について、明治三十六年管理部「日誌」(三井文庫所蔵史料、追一九二七)によれば、一〇月二三日第四八回管理部会、で益田専務理事よりゼンキンス氏との交渉の結果、名義借用は見合せとなった旨の報告があった。

〔(編外朱書) 明治卅七年三月廿五日第拾貳回管理部会ノ節〕

団鉱山会社専務理事事發議

一三池海面坑区買入ニ関スル件

団専務理事事發議ノ大要ハ、三池海面坑区ノコトハ非常ニ面倒ナリシカ、其後山口ノ扱ヒニ依リ、多額納税議員ニテ金貨ナル矢阪ト云フ者ノ名義ニテ先願者等ニ金ヲ貸シ、終ニ必要ナル四坑区丈ケハ事実当方へ買取りノ姿トナレリ、猶此先少シ未

入手ノ他坑区ニ掛ル所アルヘキモ、大抵目下ノ処ニテ一ト片付ケ致ス方得策ナラン、尤モ当方ハ表面全く無關係ノコトニシテ山口自身ノ關係ト致スコトナレトモ、茲デ矢阪ニ壹千円、神崎ニ壹千円、書記某ニ若干千円、山口ニハ三千円以上、總計凡ソ六千円ヲ謝礼トシテ支出シ始末ヲ付ケ、其金額ハ差当リ機密費ヨリシ、追テ起業費ニ繰替ヘテハ如何云々陳述アリ、益田専務理事ヨリ従来ノ成行等説明アリテ、予想ヨリ少額計貳万六千円ニテ茲ニ至リシハ幸甚ナリ、早速一段落相付ケ可然ト決ス

同上

〔(編外朱書) 同會議録ニ写〕

一使用人海外派遣ニ関スル件

団専務理事事曰ク、昨年ヨリ田川ノ方ニテハ、四尺炭採掘上ニ就テ困難ヲ感スルヨリ自費ヲ以テ海外へ出テ専ラ其取調ヘ致度ト願ヒ出テタル者アリ、依テ之ヲ補助シテ派遣スルコトトシ、又三池ノ方ハ築港及機械等ニ関シ取調ノ為メ差向キ二人程海外へ派遣致サセ度、何レ其際ハ更ニ提案致スヘキモ、予メ御意向同ヒ置度云々陳述アリ、益田専務理事ハ、此位ノ大仕掛ニテ採炭スル会社ニテハ、絶ヘス一人位海外へ派出シ置クコトハ利益アルヘキコト信ス、今日迄之ナキハ寧ロ後クレタルノ感アリト述ヘラレ、遂ニ派遣シ可然ト決ス

益田専務理事事發議

〔(編外朱書) 同寫〕

一支店、出張所々在地ニ於テ軍人援助ノ寄附方針ニ関スル件

益田専務理事曰ク、誠ニ小事ナレモ一応御方針ヲ伺ヒ置キ度
ハ、支店又ハ出張所々在ノ各地ニ於テ軍隊ノ慰勞、軍人救護
等ニ付寄附ヲ催サル、場合ニハ如何致スヘキカ、議長御名義
ヲ出ス程ノ金高ニモ無之、何レモ少額ノ故其土地所在ノ支
店ナリ出張所ナリノ名義ニテ其地方ノ事情ヲ斟酌シテ寄附ス
ルニセハ、其土地住氏ノ感情モ宜シク、營業上ノ便利ニモ
ナラント存ス云々ト陳述アリテ、素ヨリ少額ノ寄附ナレハ各
店ニ於テ陳述ノ如ク適宜取斗ヒ可然ト決ス

三井家同族会管理部会審議事項索引

目次

三井銀行提出議案	三九一
三井物産会社提出議案	三九四
三井鉱山会社提出議案	三九九
三井呉服店提出議案	四〇一
三井営業店重役会提出議案	四〇三
三井家同族会管理部提出議案	四〇四
理事提出議案、その他	四〇六

銀行所有王子製紙株式会社株ノ現代価値却ニ
関スル件(重)……………七三三

〃 鈴木梅四郎補給金ノ件(重)……………七三三

④^(臨時) 12・13 王子製紙株式会社ニ対スル整理処分ノ件……………七三三

⑤^(臨時) 12・24 米山梅吉辞令案(重)……………七三三

〃 明治三五年下半年特別賞支給ノ件(重)……………七三三

明治三六年

⑥ 1・7 明治三五年下半年利益分配案(重)(修正可決)……………八三三

⑦ 1・16 三井銀行滞貸準備積立金ニ関スル件……………八三三

⑧ 1・27 国庫事務取扱辞退ノ件(重)……………八三三

〃 横須賀支店閉鎖ノ件(重)……………八三三

⑨ 2・13 鐘淵紡績株式会社々債引受ニ関スル件(重)……………八三三

⑩ 2・27 各営業店へ地所売却ノ件(重)(未決ノテ撤回)……………八三三

〃 三井銀行ノ営業方針ニ付銀行社長ノ意見書……………八三三

⑪^(臨時) 3・12 火災保険廃止ノ件(重)……………八三三

⑫ 4・1 麹町区紀尾井町土地建物売却ノ件(重)……………八三三

⑬ 4・15 所有公債売却ノ件(重)……………八三三

〃 横浜市公債応募ノ件(重)……………八三三

⑭ 5・26 小口当座預金無利息範圍拡張ノ件(重)……………八三三

〃 定期預金ノ最低額ヲ定ムル件(重)……………八三三

⑮ 6・17 神戸市水道公債応募ノ件(重)……………八三三

〃 身元保証金規則中追加ノ件(重)……………八三三

⑯ 6・26 芝三田四国町地所ヲ売却地卜定メ漸次分割売却ノ件(重)……………八三三

〃 明治三六年上半年決算報告予定ノ件……………八三三

⑰ 7・3 三井銀行所有日本銀行株式売却ノ件(重)……………八三三

〃 明治三六年上半年特別手当金支給ノ件(重)……………八三三

⑱^(臨時) 7・7 明治三六年上期(第二〇期)利益分配案(重)……………八三三

⑲ 7・14 足利、三池両支店閉鎖ノ件(重)……………八三三

⑳ 7・17 補給金返納ニ関スル件……………八三三

㉑ 7・28 田宮善次郎懲罰案(重)……………八三三

〃 川上熊吉懲罰案(重)……………八三三

㉒ 支店長任免ノ件(重)……………八三三

㉓ 8・7 小出収外四名増給ノ件(重)……………八三三

㉔ 〃 京釜鉄道社債応募ノ件(重)……………八三三

㉕ 9・1 大阪商船株式会社々債引受ノ件(重)……………八三三

㉖ 〃 王子製紙株式会社ニ対スル貸金拒絶ノ件……………八三三

㉗ 9・11 土地建物売却ノ件(重)……………八三三

〃 土地建物管理契約ノ件……………八三三

(注、右二件、本文中「九月十日」とあるのは誤記である)

㉘ 9・18 小野浜倉庫敷地建物一部売却ノ件(重)……………八三三

㉙ 9・22 麹町区中六番町市街宅地及建物買入ノ件(重)……………八三三

㉚ 9・29 罷役木村永世暇及慰勞金給与ノ件(重)(慰勞金ハ未決)……………八三三

〃 上柳清助暇及慰勞金給与ノ件(重)(慰勞金ハ未決)……………八三三